

久し振りの甲子園観戦に思いがい

東京鳥取県人会・幹事(元・米東野球部主将) 末次 克彦

選

抜高校野球大会の大会本部は決勝戦のあった4月3日、応援団の最優秀賞に21世紀枠で初出場した富岡西(徳島、県立校)を選び、優秀賞には習志野(千葉、市立校)、桐蔭学園(神奈川県、私立校)、東邦(愛知、同)、履正社(大阪、同)、米子東(鳥取、県立校)が選ばれた。吹奏楽隊の生徒諸君と音楽の先生たちの応援演奏が評価され、それを取り巻いた市民、在学生・OB達の応援マナーの良さ、力強さが評価されての表彰となれば、試合での勝利に匹敵する価値があるかもしれない。

富岡西は阿南市の小さな町にある県立校だが、町のお母さんたちの野球応援熱はとて有名である。阿波おどりを取り入れた地域色豊かなユニークな応援は活気と勢いに満ち、スムーズな入場や待機時の整然とした様子など、マナーの良さが評価されたと思う。米東の応援団が陣どつたアルプス席は試合後結構な数のペットボトル等、ごみがちらかっていったが、応援に来た人たちが最後のごみ拾いをしていた。

富

富岡西、米子東とも善戦したが、第一戦で敗れた。両校とも全国的には小さな町や市であるにも関わらず、往路は早朝発、復路は試合直後に甲子園を離れるという強行便のバス40台以上で生徒、卒業生、市民約3千人が応援に来た。米東の場合、所在地域には大規模企業が少なく、甲子園出場応援金も市民の小口寄付額、口数とも会社の

寄付より圧倒的に多かったと。同じ応援団優秀表彰を受けた今回の甲子園での優勝校、準優勝校はこれまでの戦績抜群の私立校と市立校である。優勝校は自校演奏隊が外国訪問のため、国内有数の演奏力を誇る他校楽団に緊急応援演奏を要請した。準優勝校も打楽器音響のすごさに球場近隣から音量セーブの要請を受けた等の報道も流れるほど。小生も久しぶりに甲子園球場に出向いて、鳥取県からの県立進学高と他県の私立校、特に甲子園の常連校、戦績優秀校の試合ぶりを見て、この十年、二十年で甲子園の高校野球も随分と変わったなという感じが強い。

高

高校野球の甲子園大会には春も夏も多くの観衆が集まる。国民的イベントであり、高校生という人の人生でも大切な成長期における貴重な教育、人間形成の場になるものがある。エンタメと教育の場を同時に見つけ、楽しみ、批評できるところに高校野球の国民的人気、関心の基盤がある。

一つは公立と私立校間の部活格差が大きく広がっている。個人(父兄)負担格差も気になる。公立校も県立より市立の方が甲子園出場実績が良くなっている。県立高校の場合、人気競技が野球ばかりでなく、男女のサッカー、陸上駅伝やラグビーなどに広がり、野球部重視が難しくなっているようだ。以前から公立校では、野球の部活費学校補助が少ない額で固定されているケースが多い。一方、野球部の支出は練習マシン、室内練習、トレーニングシステム、大会数の増加による移動・交通・宿泊費増、デジタル革命期でのデータ収集・分析のニーズと

コストの増加など、増える要因が多い。高校野球連盟の指導で、春の練習試合は3月8日が解禁日。どの甲子園出場校も開催日(今年は3月23日)までに沖縄、九州などの気候が温暖で安定している土地で合宿をし、強い相手と練習試合をたくさんするだろう。この願いがどのくらい叶うか。公立・私立校間の格差はここでもかなり広がっているのではない。実際、春の甲子園の試合で変則投法への対応打撃力、走塁、連携守備などに、練習試合数による差が現れていたように思える。



▲甲子園での応援風景 写真提供・長島康夫氏

たと思う。

選手たちが球場であんなに奮闘する動機は何かも考えた。大観衆が集まり、超一流のグラウンド、球場環境で野球がやれる喜びがまずあるだろう。学校の名誉、多くの同校・同級生、父兄友人にプレーを見て、応援してもらえ、快感も大きいだろう。ここは自分のプロ野球選手志望、有名大学、社会人野球チームの優待的勧誘への期待、活躍すれば地方、中央のメディアに載り、デジタルチャンネルで知名度が得られる矜持の想いも強いだろう。

た

だ、甲子園野球重視の学園経営は成功時の快感が強い反面、勝負にこだわりすぎてしまう面や負けの時の失望が大きい面がある。それで理性を失うようでは、教育の場としての高校野球と

こうして高校野球人気が続く、私立の甲子園伝統校や新興校の中から甲子園常連校が形成されつつある。国勢の減少傾向を、定員数の確保意思と実践ルールを死守すること、いわば高等学校番付の維持向上策(平成最後の卵日記)

交流部会

魅力ある交流・親睦のために

交流部会長 勝部日出男

鳥取県人の親睦とともにその活躍を支援し、故郷の発展に寄与できる交流活動を今年もいろいろ企画、実施しています。既に1月28日、美術鑑賞&グルメの会として、上野の森美術館フェルメール展を鑑賞したのち、かつての上野駅迎賓室を改装したプラッセリレカンにて、フェルメール評論家村岡士郎さんからの解説を受けながら美味しいフランク料理を28名の参加者により楽しみました。3月5日、大山開山1300年記念行事の一環として協力し、上野の東京文化会館で開催さ

Uターン実録

故郷に暮らす

会員 武田祐孝

昨年秋、46年間の東京暮らしを離れ、若桜町で父と暮らす

を始めた。母は4年前に他界した。一人暮らしに慣れた父の暮らしぶりに驚かされた。鳥取市内で友人の折衝突するが、お互い修正しながら日々を過ごしている。

毎朝仏壇の線香の香りで目が覚める。居間に座って目を上げる。若桜が祀られている。日本海新聞を読み、白バラ牛乳

を飲む。玄関から先祖の眠る墓が見える。突如役場からの放送が前の他界した。一人暮らしのIP告知端末の画面にその内容が折衝突するが、お互い修正しながら日々を過ごしている。

若桜町の線香の香りで目が覚める。居間に座って目を上げる。若桜が祀られている。日本海新聞を読み、白バラ牛乳

を飲む。玄関から先祖の眠る墓が見える。突如役場からの放送が前の他界した。一人暮らしのIP告知端末の画面にその内容が折衝突するが、お互い修正しながら日々を過ごしている。

若桜町の線香の香りで目が覚める。居間に座って目を上げる。若桜が祀られている。日本海新聞を読み、白バラ牛乳

を飲む。玄関から先祖の眠る墓が見える。突如役場からの放送が前の他界した。一人暮らしのIP告知端末の画面にその内容が折衝突するが、お互い修正しながら日々を過ごしている。

若桜町の線香の香りで目が覚める。居間に座って目を上げる。若桜が祀られている。日本海新聞を読み、白バラ牛乳

を飲む。玄関から先祖の眠る墓が見える。突如役場からの放送が前の他界した。一人暮らしのIP告知端末の画面にその内容が折衝突するが、お互い修正しながら日々を過ごしている。

若桜町の線香の香りで目が覚める。居間に座って目を上げる。若桜が祀られている。日本海新聞を読み、白バラ牛乳

を飲む。玄関から先祖の眠る墓が見える。突如役場からの放送が前の他界した。一人暮らしのIP告知端末の画面にその内容が折衝突するが、お互い修正しながら日々を過ごしている。

若桜町の線香の香りで目が覚める。居間に座って目を上げる。若桜が祀られている。日本海新聞を読み、白バラ牛乳

を飲む。玄関から先祖の眠る墓が見える。突如役場からの放送が前の他界した。一人暮らしのIP告知端末の画面にその内容が折衝突するが、お互い修正しながら日々を過ごしている。

若桜町の線香の香りで目が覚める。居間に座って目を上げる。若桜が祀られている。日本海新聞を読み、白バラ牛乳

を飲む。玄関から先祖の眠る墓が見える。突如役場からの放送が前の他界した。一人暮らしのIP告知端末の画面にその内容が折衝突するが、お互い修正しながら日々を過ごしている。

若桜町の線香の香りで目が覚める。居間に座って目を上げる。若桜が祀られている。日本海新聞を読み、白バラ牛乳

を飲む。玄関から先祖の眠る墓が見える。突如役場からの放送が前の他界した。一人暮らしのIP告知端末の画面にその内容が折衝突するが、お互い修正しながら日々を過ごしている。

若桜町の線香の香りで目が覚める。居間に座って目を上げる。若桜が祀られている。日本海新聞を読み、白バラ牛乳



▲筆者の武田さん

住居のある集落は、若桜町から氷ノ山に「運が良かった」と向かって3キロ強の谷合にある。気温は町中より1〜2度低く、積雪は多い。靴は必須アイテムである。冬は融雪装置の水流、除雪車の通過を歩行するには、雪と厳しいゴム長が最適である。鳥取市内で友人の折衝突するが、お互い修正しながら日々を過ごしている。

Advertisement for Yamazaki Royal Bread, featuring the product image and contact information for Yamazaki Bakery Co., Ltd.

Advertisement for Hanafusa Tax & Accounting Services, listing business content and contact details.

Advertisement for Marufuku Coffee Shop, celebrating its 30th anniversary and providing contact information.

古民家を「きまぐれの宿 風のたより」と謳い、
絵手紙やライブ企画で大忙しの大月ご夫妻



▲華丸大古コンビも来賓した折、中央大月夫妻
▲長生郡の古民家
きまぐれの宿

定年後のシニアライフを満喫しているご夫婦がいらっしやる。鳥取県出身の大月昭和さん(77歳、倉吉市出身)とユキさん(73歳、鳥取市出身)のお二人。古民家の宿を信州飯山市と千葉県の長生郡長柄町の2カ所に持ち、普段は千葉県市川市に住んでいて、2人揃って絵手紙教室の講師をするかたわら2軒の「きまぐれの宿 風のたより」を取り仕切っている。

絵手紙は、元々ユキさんが趣味の手遊びではじめたものだが、地元市川市や古民家の「きまぐれの宿 風のたより」で絵手紙教室などを行って、講師の資格まで取得された。昭和さんは大手運送会社でサラリーマン時代を過ごし、高度成長期がむしやら世代を生きぬいてきた。転勤族でもあったから、安住の地が欲しかった。いつかセカンドハウスを持ちたいという夢があり、それは案外早く叶えられた。

「私は思いついたらすぐ、何という行動力。ユキさんも信州きまぐれの宿でギャラリー教室を展開、絵手紙の創始者といわれる小池邦夫氏の「絵手紙展」をやったり、又「きまぐれ落語会」やら「きまぐれ音楽ライブ」



▲落語ライブ風景

「動かなければ出会いがない」がユキさんの口ぐせで、「絵手紙で伝えたいことは、生きる力、学ぶ力、癒す力です」というが夫婦共々、昭和さんは黙って笑ってユキさんにうなずくのだ。

「この料理って阿部らしいなあ」と言われるような、僕にしかできない味付けで自分らしい料理を作りたいと思いついて、6年前にこの店をオープンしました(阿部さん)。とことん素材にこだわるのが阿部さんの身上。厳選した地元鳥取の旬の素材をふんだんに使い、味だけでなく見た目にも四季を感じさせる料理を提供している。野菜類は実家のご両親が丹精込めて作る無農薬野菜がメイン。魚は境港や赤碓港などから選



▲漫画/かわにしよと



イラスト/かわにしよと

故郷つながりの親しみと、会って一瞬で「アベ」をもらった。日本代表選手として世界大会で期待されるボート競技選手、鳥取県米子市出身の明治大学4年、高島美晴(たかしまひる)さん。(写真下)



トトリのコースを風や波、水の流れ等の自然の影響を受けるなかタイムを競いあう競技。中学校時代はソフトボート選手として活躍し、今の活躍は、米子東高校時代から始まった。クラスメイトと一緒に行ったボート部の体験、錦朝日レガッタにおいてシン

県人のお店

鳥取県の素材を生かした
フランス料理レストラン

「La Bee アベ」



東急大井町線「尾山台」駅から徒歩3分。潇洒なお店のドアを開けると爽やかな朝の空気を感ずる。カウンター8席、5人がけのテーブル席ひとつ。シンプルで清潔感あふれる空間だ。オーナーシェフの阿部篤志さん(40歳写真)は境港市出身。「母が大の料理好きで、熱心に研究しては色々手作りしていました。パス

身もバレンタインのお返しは自分で作っていたそうだ。高校卒業後、大阪調理師専門学校で学び大阪で9年修業を積んだ。さらにベルギーとフランスで腕を磨いた。「この料理って阿部らしいいなあ」と言われるような、僕にしかできない味付けで自分らしい料理を作りたいと思いついて、6年前にこの店をオープンしました(阿部さん)。とことん素材にこだわるのが阿部さんの身上。厳選した地元鳥取の旬の素材をふんだんに使い、味だけでなく見た目にも四季を感じさせる料理を提供している。野菜類は実家のご両親が丹精込めて作る無農薬野菜がメイン。魚は境港や赤碓港などから選

「生産者のかたが一生懸命作っている素材ですからね、丁寧に扱ってその素材の持つ生命力を生かす調理をいっしょに心掛けています(阿部さん)」。ランチ、ディナーともコース料理。ランチ(2900円・税別)は肉か魚を選べる。ちなみにこの日のメニューは☆「チカメキントキ鯛のカルパッチョ」☆「鹿肉のテリーヌ」☆「サツマイモのスープ」☆「イペリコ豚のソテー」☆「パインアイスクリーム」☆「コーヒ」。

「僕は鳥取県で生まれて、鳥取県に育ててもらいましたからね、少しでも恩返しをしたいと思っています。地元の生産者が作る素材を仕入れることで、微力ながら鳥取県にお金が還元できるようにしたいと思っています(阿部さん)」。阿部さんの故郷への感謝の言葉を聞き、同県人として嬉しく思った。大いにエールを送りたい。

まず、見た目が美しい! 繊細で優しい味が口の中に広がった。素材の旨さと持ち味がきちんと引き出されている。吟味された材料に確かな調理だ。お腹も心も大満足。よけいなホメ言葉は少ない。とにかくおいしい。

【文】加藤雅子・写真/中村仁史

囲碁の会

第25回かしの会 囲碁会は、去る3月16日(土)市ヶ谷の日本棋院において14名の参加の下に行われた。3回の実施として8年が経過したことによる。碁は段位者、級位者ともにハンディがあるから、必ずしも上位者が勝つとは限らないから面白い。それに、頭の体操とボケ防止には格好の娯楽である。

今回の優勝者は、萬治隆生四段を必殺技で仕留めた景山正二段が全員から推挙された。準優勝は、毎回世話人を務める手島淳行六段だった。小泉典子9級が紅一点で参加された。参加者名と(勝敗)は以下の通り。なお、打ち上げの反省会も居酒屋アングで大盛り上がりであった。

- 井田三郎二級(2-2)
- 仲川達夫二級(1-3)
- 中村仁史三級(0-1)
- 小泉典子九級(0-2)

- 西尾省三七段(2-2)
- 足立盛二郎六段(1-2)
- 手島淳行六段(3-0)
- 萬治隆生四段(2-2)
- 景山正二段(3-1)
- 上村正明二段(2-2)
- 安田岑吾初段(2-1)
- 佐賀年之初段(2-2)
- 遠藤隆司初段(2-2)
- 井田一郎二級(1-3)

次回は7月13日(土)11時半より日本棋院と決定。(写真)中村仁史・文/遠藤隆司

編集後記

令和を迎えた記念すべき60号、われながら感無量です。丸20年が経ったことになりました。よくやってこられたな、が実感です。事務方担当の陰の力はもとより執筆者の皆さん、そしてご協賛頂いたクライアント様に心からのお礼と感謝を申し上げます。よい連休をお過ごし下さい。(遠藤隆司)

弁護士 清水紀代志 (岩美町出身)
〒100-0006 東京都千代田区有楽町2-10-1
東京交通会館ビル10階
TEL 03-5220-4531/FAX 03-5220-4534
http://www.mizuki-p.com

舞浜エリアにカジュアルリゾートホテルHOTELユーラシア舞浜ANNEX
2019年2月21日
グランドオープン!
<JR京葉線 舞浜駅より送迎バス15分>
〒279-0032 千葉県浦安市千鳥10-5
https://annex.hotel-eurasia.jp/
株式会社 武蔵野 会長 安田定明 (南都町出身)

山陰・米子・皆生温泉
皆生つづや
〒683-0001 米子市皆生温泉2丁目5番1号
TEL(0859)22-6181 FAX(0859)22-0286
URL http://kaiketuryuya.com E-mail sanin@kaiketuryuya.com